

## われわれは活動家をどう組織しなければならないか

秘密組織の全技術は、**いっさいのもの**を利用し、「すべてのものにそれぞれ仕事をあたえ」、それと同時に、全運動の**指導権**を保持すること、いうまでもなく権力によってではなく、権威の力によって、精力によって、より多くの熟練、より多くの多面性、より多くの才能の力によって、保持することになければならない。（この注意は、厳格な中央集権化は、中央部に**たまたま無能な人物**がいて大きな権力を付与されるばあいには、容易に仕事を破滅させる恐れがあるという、あのありがちな、ありふれた反論にたいするものである。そういう恐れはもちろんある。だが、これに対抗する手段は、選挙制や地方分権制ではありえない。この地方分権制は、多少とも広範な範囲で行うことは絶対にゆるされないことであって、専制治下の革命的活動においては直接に有害でさえある。どんな規約もこれに対抗する手段をあたえはしない。それをあたえることができるのは、ありとあらゆる下級グループの決議にはじまり、中央機関紙および中央委員会にたいするそれらの下級グループの意見の申達を経て、（最悪のばあいには）まったく無能な首脳部の**打倒**にまでいたる、「同志的な働きかけ」の措置だけである。）革命的活動のいろいろな能力が必要であること、ときには、組織者として全然役に立たない人間がかけがえのない煽動家であったり、厳重な秘密活動の堅忍性にたいして無能な人間が卓越した宣伝家であったりする等々のことをわすれずに、委員会ではできるだけ十分に分業を実施するよう努力しなければならない。

ついでながら、宣伝家のことに関連して、私はこの分野にはふつう能力の乏しい人々がみちあふれており、そのために宣伝の水準が低下していることに反対して、なお二、三述べておきたい。われわれのあいだでは、しばしば学生ならだれでも無差別に宣伝家とみなされており、あらゆる青年が自分に「サークルをまかせよ」、等々と要求している。これとは戦わなければならない。というのは、このことからしばしば非常に大きい害毒が生じているからである。真に原則的に堅固な有能な宣伝家というものは、**きわめて少数**であって（そしてそういう宣伝家になるためには、しっかりまなび、経験を積まなければならない）、そういう人々は、専門化させ、それにまったく専念させ、とくに大切にしなければならない。このような人々のためには週に数回の講義を組織し、適時に他の都市に彼ら呼びよせることを知らなければならず、一般に熟練した宣伝家たちによる方々の都市の巡回を組織しなければならない。他方、多くの初心の青年はむしろ実践的業務につける必要がある。われわれのあいだでは、こういう実践的業務は、楽天的にも「宣伝」と称されている学生のサークルめぐりとくらべて、しばしば虐待されている。もちろん、真剣な実践的業務のためにも、おなじく徹底的な準備が必要であるが、それでもやはり、そこでは「初心者」のためにも仕事をみつけることが、より容易であろう。

こんどは工場サークルについて。それはわれわれにとってはとくに重要である。運動の主要な力はすべて**大工場**の労働者の組織性にある。なぜなら、大工場は、労働者階級全体のうちで数の点で優勢なだけでなく、影響力や、意識の発達や、闘争能力からいえばさらにそれ以上に優勢な部分を、擁しているからである。一つ一つの工場がわれわれの要塞でなければならない。だがそのためには、「工場の」労働者組織は、内部的にはあらゆる革

命的組織と同じくらい、秘密であり、外的には、つまり外部との連絡においては、それと同じくらい「分岐して」いなければならない、それと同じくらいその触角を遠く伸ばし、しかもきわめて種々の方面に伸ばさなければならない。私は、ここでも労働者革命家のグループがかならず中核であり指導者であり「主人」でなければならないことを強調する。…  
……

工場グループまたは工場委員会は、(きわめて多数に存在しなければならないその他のグループから区別して)工場での社会民主主義活動全体を行う委任と全権を**直接に**〔地方〕**委員会から**受けたきわめて少数の**革命家**によって構成されなければならない。……工場内の下級委員会を組織することを、…〔委任をうけた〕この特別委員たちは、…工場内下級委員会の委員候補者を十分に試験し、これを反対訊問で「責め」、必要とあれば彼らにたいし見習期間をもうけ、そのさい、当該工場の工場内下級委員会委員候補者の**できるだけ多数**とみずから面接して試験するようにつとめ、最後に、各工場サークルのこれこれの構成を確認するよう、あるいはこれこれの労働者に、下級委員会全体をつくり人選し選定する全権を賦与するよう、〔地方〕委員会に提議する。

第六巻 われわれの組織上の任務について一同志にあたる手紙 P240~243

1902年9月に執筆

## コメント

秘密組織の全技術は、いっさいのものを利用し、「すべてのものにそれぞれ仕事をあたえ」、それと同時に、全運動の指導権を保持すること、いうまでもなく権力によってではなく、権威の力によって、精力によって、より多くの熟練、より多くの多面性、より多くの才能の力によって、保持することにななければならない。

しっかりまなび、経験を積んだ、真に原則的に堅固な有能な宣伝家というものは、きわめて少数なので、そういう人々は、専門化させ、それにまったく専念させ、とくに大切にしなければならない。党としてこれらの宣伝家を活用する講義を徹底的に組織しなければならない。

また、大工場の労働者革命家グループは——大工場は、労働者階級全体のうちで数の点で優勢だけでなく、影響力や、意識の発達や、闘争能力からいえばさらにそれ以上に優勢な部分を、擁しており、とくに重要なので——十分経験を積んだ、ためされずみの能力のある者が選任されるようにする必要がある。